

# CONTENTS

## イントロダクション

- P 1 目次と編集方針
- P 2 企業理念体系
- P 4 価値創造のあゆみ
- P 6 マテリアリティ
- P 8 At a Glance

## 価値創造ストーリー

- P10 価値創造を支える非財務資本
- P11 価値創造プロセス
- P12 社長メッセージ
- P16 第5次中期経営計画
- P20 ステークホルダー・コミュニケーション

## 戦略

### サステナビリティ戦略

- P22 サステナビリティに関する捉え方
- P23 カーボンニュートラルに関する基本的な考え方
- P30 気候変動への対応(TCFD提言を踏まえた取組)

### 事業戦略

#### セクター戦略

- P32 エネルギー分野
- P33 運輸・交通分野
- P34 都市開発分野
- P35 産業分野

#### エリア戦略

- P36 地域
- P37 海外

#### 機能戦略

- P38 シンジケーション
- P39 アドバイザリー
- P40 コンサルティング
- P41 アセットマネジメント
- P42 特定投資
- P44 危機対応

### 基盤戦略

- P46 財務資本
- P47 人的資本
- P51 知的資本
- P52 関係資本
- P53 社会資本

## ガバナンス

### コーポレート・ガバナンス

- P54 取締役会議長メッセージ
- P56 コーポレート・ガバナンス体制
- P57 コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方
- P58 取締役会
- P61 経営会議
- P61 監査
- P62 取締役、監査役及び執行役員
- P64 コンプライアンス

### リスク管理

- P66 リスク管理態勢
- P66 統合リスク管理
- P70 ストレステスト
- P71 事業継続への取組

## データ

- P72 連結財務サマリー
- P73 組織体制
- P74 会社情報
- P75 グループ会社情報

### 編集方針

DBJグループは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深めるため、2003年度に初めて「社会環境報告書」を発行しました。

2017年度に策定した「サステナビリティ基本方針」において、「ステークホルダーとの対話を通じて、価値創造プロセスの継続的な改善に努める」ことを定め、以降毎年「統合報告書」を発行しています。「統合報告書」は、財務情報と非財務情報を通じ、DBJグループの事業内容や持続的な価値創造に向けた取組について、広くステークホルダーの皆様にご説明することを目的として編集しています。

統合報告書2023では、経営上の重要課題として再整理した「マテリアリティ」を含め、DBJグループの過去・現在・未来といった全体像を示すイントロダクションを設けました。また、強化・見直しを実施した「第5次中期経営計画」を軸に、事業戦略、基盤戦略を体系的にお伝えすべく再構成し、社会全体の持続可能な成長に向けて、気候変動対応にかかる「トランジション方針」や温室効果ガス(GHG)排出量の定量的な削減目標設定など、最新の取組状況をお伝えしています。

DBJグループによる未来を切り拓くための挑戦、そして本統合報告書を目にしてくださる皆様の挑戦をイメージし、未来に向けた光をテーマにデザインしました。表紙には、DBJ本店から望む風景に光を重ねた写真を採用しています。

なお、本統合報告書における記載内容については、経営会議において決定しています。

### 報告対象期間・範囲

- **対象期間** 2022年4月～2023年3月(一部、対象期間外の情報を含む)
- **対象範囲** 原則として、DBJと主要な子会社12社について報告
- **発行時期** 2023年8月

### 参考にしたガイドライン等

- 国際統合報告評議会(IIRC)国際統合報告フレームワーク(現在のIFRS財団が提示するフレームワーク)
- 価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス

### ディスクレーマー／免責事項

本統合報告書には、将来予測に関する記述が含まれています。こうした記述は、本統合報告書作成時点における入手可能な情報及び不確実な要因にかかる仮定ないし判断を前提としており、諸条件の変化によって、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

